

研究開発課題別中間評価結果

1. 研究開発課題名：自己組織化技術に立脚した革新的分子構造解析

2. 研究代表者：藤田 誠（東京大学 大学院工学系研究科 教授）

プログラスマネージャー：江崎 敦雄（科学技術振興機構）

3. 中間評価結果

本研究開発課題は、有機化合物構造解析を革新することを目的に、結晶化不要の極微量試料X線構造解析手法「結晶スポンジ法」を中核技術とし、実用的な分析手法へと発展させることを目指した研究開発を進めている。

これまでに、各工程の条件最適化により大幅な精度向上を達成し IUCrJ 誌に最新プロトコルを発表すると同時に、多くのアカデミア、企業との共同研究を通じて、痕跡量での解析、絶対配置決定において競合技術を凌駕する手法であることを実例で示すなど多くの成果をあげた。2 回の研究会開催などプログラスマネージャー（PM）・研究代表者を中心に社会実装に向けた活動も充実しつつある。

ACCEL 後半では、引き続き広く使われるための汎用型と個別のニーズに適した特化型の両面から実用的な分析手法へと発展させることを目指す。そのために、補完技術開発による適用範囲の拡大を図るとともに、多くのユーザーに有効性を体感してもらう仕組みを検討する計画であるが、ユーザーニーズを踏まえた上で、汎用的な分析手法とするために解決すべき課題を明確にして研究開発を進めていただきたい。多くの産業分野において本手法が有効であることを立証することにより、今後の研究開発の継承が期待できると考えられる。

以上